

2020年度（2021年3月期）第1四半期決算発表説明会

Q&A

Q1：今回の通期見通しは「セグメント利益」のみの開示となっているが、セグメント利益をもとに「売上高」「経常利益」「当期純利益」を算出し開示しなかった理由は何か。

A1：「セグメント利益」については、粗利単価等をもとに直接算出しているが、「セグメント利益」から「売上高」や「原価」を逆算するとブレが大きく、合理的な算定が困難である。また、「経常利益」「当期純利益」についても、営業外損益・特別損益に不確定な要素が多く、合理的に算定することが困難であるため、今回は開示を見送った。

Q2：通期見通しにおけるスライドタイムラグ改善の規模が想定したよりも小さいが、昨年度のTGのLNGスポット比率が全日本に比べて低かった状況が足元でも続いているという認識か。

A2：今年度も足元ではTGのLNGスポット比率が全日本に比べて低い状況が続いており、見通しにおいてもスライドタイムラグの改善を限定的にしているが、国内全体で需要が減退している中で、昨年と比べて、日本全体でスポット調達が増大していくとは考えづらく、足元の状況が続くとは考えていない。

Q3：「新型コロナ影響」について、実績では約▲66億円、通期では約▲300億円と想定しているが、第2四半期以降のガス販売量の状況など今後の見通しと合わせて教えてほしい。

A3：ガスセグメントにおいては、ガス販売量について、家庭用は大きな影響を受けないと考えているが、業務用は、ホテル・飲食・病院・学校等の需要減の影響が大きいと捉えている。又、工業用のうち発電用については、回復見通しが不透明となっており、その他大口については、お客さまへのヒアリング結果を織り込んだ想定としている。又、ガス販売量以外の要素として、第2四半期以降においてLNG需給調整費用についても一定程度織り込んでいる。ガス以外のセグメントでは、エネルギー関連セグメントにおける、住宅着工の遅れによる受注工事の利益減等、それぞれのセグメントにおいて分析した影響額を織り込んでおり、合計で▲300億円程度としている。

以上